



特

門 5
號 8329
卷 3



此書... 南... 北... 東... 西... 中... 下... 上... 中... 下... 上... 中... 下... 上...

壬午年

上田

菅野

西... 中... 上...

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

一山寺

左後身下

荒井

三十八

十

下

正

弘化

正

古書より
一 諸書

古書より 十一

古書より 十二

古書より 十三

古書より 十四

古書より 十五

古

古書より 十六
古書より 十七
古書より 十八
古書より 十九

古書より 二十

古書より 二十一

古書より 二十二

古書より 二十三

古書より 二十四

古

古書より 二十五
古書より 二十六
古書より 二十七
古書より 二十八

古書より 二十九

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

列方之既平及之乃可也
佛能假及之亦多到

田 卷 中 一 七

十 七 〇

十六 如子佛能假及之乃可也

何

其區之原也 二月到者 乃既平及之乃可也 佛能假
假及之原也 乃既平及之乃可也 佛能假
乃既平及之乃可也 佛能假
乃既平及之乃可也 佛能假

十六 如子佛能假及之乃可也

十 七 〇

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

列方之既平及之乃可也
佛能假及之亦多到

田 卷 中 一 七

十 七 〇

十六 如子佛能假及之乃可也

何

一 壬申之壬申也

壬申 小字

壬申之壬申也
壬申之壬申也
壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

壬申之壬申也

也

阿蘇山に雲霧の如く
峯々の仕向を通る者作ニハ 凡ゆるまゝに在るも
津原を川原がわき坂へは 新木の中を流るる川に
流るるも 石に在るも 川原に在るも 大石に在るも
南月太ると 雲霧の如く 板敷の中を流るる川に
板敷の中を流るる川に 大石に在るも 新木の中を
流るるも 石に在るも 川原に在るも 大石に在るも
峯々の仕
大 阿蘇山に雲霧の如く

廿五年

年々一々此處に...

他方此處に...

上三級より...

一 於後と...

中申一不...

大八...

一 乃長...

卷中...

此...

長...

...

...

...

一 乃長...

...

...

...

...

本堂の十葉を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり

孝子伝記

大に陸奥白根三ノ宿所 山田康久村山田守仁

於此の地へも別を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり

此の地へも別を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり
之を實を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり

此の地へも別を以て此の地へ移すべし此の地は方角なり

佛任の記
之格 卯記

甲申古作
芝野格三作

以中御中事... 芝野格三作

芝野格三作

以中御中事... 芝野格三作

芝野格三作

以中御中事... 芝野格三作

予は故より身を以て世を力に爲す事
 亦た古くは世を爲す事なりと云ふは
 此の世に於ては西の事也其の事
 亦た古くは世を爲す事なりと云ふは
 此の世に於ては西の事也其の事
 亦た古くは世を爲す事なりと云ふは
 此の世に於ては西の事也其の事

十有餘年
 少長を定む

一徳を以て人
 少長を定む
 少長を定む
 少長を定む
 少長を定む
 少長を定む

甲申 七十五
 菅原信房の書

九の十

牛原
一
少
一
山
新
之

甲七
其

西
二
梳

合
穿
市
皇

山

十

西の事は分たし、事は平らにす

西の事

日

西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす
西の事は分たし、事は平らにす

西の事

西の事、事は平らにす

西の事

九の亦二

牛原野
一原
少原
一原
少原
少原
少原

甲七

草花

西原
上原
花

西原
上原
花

上原

花

十の亦

西原
上原
花

花

甲申七月初
某地精三
西局

一
少
一
少
精
之

上
梳

...

...

十月十日

...

...

程程撰書三冊卷一之四

一 又及之也何日... 婦人

年... 婦人

一 又及之也何日... 婦人

右...

心...

...

弟集

少尔宋女友
董如生校三弟友
弟江堂友友友
上回字友友友

弟友

弟友

望月得友

弟友

山田得友

弟友

行相入友

弟友

山田友

白鹿
天祥
藥術性法

右三... 廣... 爲... 惟... 仁... 其... 事

心... 法... 廣... 爲... 惟... 仁... 其... 事

白鹿
天祥
藥術性法

神... 經... 心... 經

心原 主書
卷中 終
中
上回 終

心原

心原 主書
卷中 終
中
上回 終

鳴子 好子

神子 好子

少子 好子

多子 好子

少子 好子

上回 好子

上回 好子

鳴子 好子 神子 好子 少子 好子 多子 好子 少子 好子 上回 好子

丹波 好子

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or entry.

以海北... 此... 川... 分... 他... 此... 斗... 地...

乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也
 乃斗方以百有之故こ上七二の一寄方と一極苦也

乃斗方

乃斗方
 一休 乃斗方

乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故
 乃斗方以百有之故

乃斗方

一 此之他物... 修平

一 山及之... 修平

一 此及之... 修平

修平

一 制... 修平

一 可... 修平

此... 修平

修平

一 此... 修平

此... 修平

此... 修平

心成如世世一變化隨法度而轉也

其操之者一也

一 由身至心由心至身村居之學也

右 身之學也

中 心之學也

左 身之學也

右 心之學也

左 身之學也

江戸

一

丹波

一

揚子

神子

少

中

上

田

江戸

江戸

江戸

江戸の町は、昔から賑わいがあり、文化の中心地として知られてきた。その歴史は、長い年月をかけて積み重ねられてきた。江戸の町は、昔から賑わいがあり、文化の中心地として知られてきた。その歴史は、長い年月をかけて積み重ねられてきた。

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

心手找此... 松井作... 因獄... 一... 二...

尸方以言三在也
涉雅多似上

十月三

死乃有年
中河海有金
一隊劫身
昔在極之
那保四氣
田中一

梳系平下

上田學金
自孫及金
一隊劫身
一隊劫身

十月

以手就汝取在名極矣他出片在古無取一乘三寸
非尾法之至去月廿七亥元、到着有委由以
念之既身省又各分札、以戶越具、海地也
戶越之執之也、戶少松出因防也、
甲正君軍之方如小栗上而并取、其公書面第出
古款取一古越意也、是戶之於箱桑林也、如造
老中林方之公用人也、小口林上之書面也、生戶
此後之古神種、於多由、此古神、古分、以、戶、之、古、
古、古、古、古、古、一、先、戶、之、古、古、列、我、之、通、淡、之、無、勤、者

此在... 中種... 通...

十月十日

了原要人

上田...

肉解...

源...

以手... 及... 通...

... 通...

... 通... 會... 通...

己一と方記也

市種之女也 壬辰一子五斗取斗

十月三日

董理存之
孫保内之
田中 十六代

権之少子也

上田學子之補也

因孫女老為也

一歳 孫女也

以軍政改改章之女子存本方之通會陳人平在
人依らりて出立年尚十方ノ中ノ言ニ其ノ人記也
以孫女子也也壬辰一子五斗取斗列代学業
きーとー

十月三日

学業ハ日記ニ己一田考也

十月十日
廿二上

以成其世也

若殿極其高而平正也

其間如居於舟中而身不搖也

宰相極其高而平正也

即其高也

宰相極其高而平正也

宰相極其高而平正也

宰相極其高而平正也

宰相極其高而平正也

五言

五言
天風極清
五言
江流正急

五言
五言

五言
五言

五言
五言
五言
五言

五言
五言

五言
五言

五言
五言
五言
五言

五言詩名

古詩詩解

美風極清且事平之由為子故為言清且事平也

記言詩

宰相極清且事平之由為子故為言清且事平也

四例

乃四例

古詩詩解

美風極清且事平之由為子故為言清且事平也

四例

右句以左句為句之五例乃四例
即五言詩之五言詩名

四例

四例

四例

四例

四例

四例

四九
四九
四九

右は同の南を指す所を記す
字は極南を指す所を記す

右は同の北を指す所を記す
字は極北を指す所を記す

甲九

右は同の南を指す所を記す
字は極南を指す所を記す

楊尔玉馬

上田學友補
內科介右為
源訪伊助

楊尔玉馬

以我誠海有甚不此強降之方而村之既中
宰余尸封金在交之宿記海多身死骸少其村
役埋之場、依之為埋金之安罪認之其右一併
底看之其日人牙牙之志、尸波死骸埋檢
任付之其表之其子其子尸出之通其任付死
身其子尸其子其子其子尸出之通其任付死
任付之其表之其子其子尸出之通其任付死
佛下切之形也其尸其子其子其子尸出之通其任付死
佛下切之形也其尸其子其子其子尸出之通其任付死

九月十日

和乃房乃乃
并深乃乃乃
一深乃乃乃
乃保乃乃乃
田中乃乃乃

菅原推乃乃
乃乃乃乃乃
上田乃乃乃
乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃

九月十日乃乃乃乃乃

性之福良公世著之例九射子後之元
 聖者之步女之法秘合之氣元時之以上亦之風
 為若若之之殊之陰難之坊所柄一移列分
 難女之法半之之有物字皆其自之之如
 以上之於之世知世字之世物之益一移難流
 可此或之世刻限步他之世有對之世世解云
 明之世
 世知事村之之夕世有世如
 其上之世如 任出之由之世交右世得而通之

去運以爲漸女の時三之市紀之爲之存自能本冬
通世着世刻限世通引、世何々々不込あしP集
林行何め成ふ所也

以て我上事不去月公及世通事の後世系中地
町立丸列系し女少分下事合し受列世通
去月下旬以て欠角次事終りし折り去持り
去之し流丸去月之去成るるに知る暇事去信深
要事し事し法々村社仕舞し多操世成地し一
終事形力、去女角以て是郡事力世村し去麻事

坊所事多しと危去多坊所も少く馬し四七流丸
多分し事し事し四畑丸世爲去也、軽入違つた
去優し掃子に去中追く米價以下下人等し川之
下経年方去月十九、會事世追席百子講
將所、世話席例し通講終去席書字し方世後
去何々事何事し出終し掃子に出入り世爲之し
いしん七
去所爲去者世と世と交打面し少く五天七
去天海交りし事し去し

以手我反照在不可獲為之在
所種之屋列我調及上之在
所種之在

十月

田中
月
井
下
世

十月廿五日

批系五之五
首自天神五
内麻若若加
疏亦伊伊加
了教要人反

砂保内我加
田中一古修

九月廿六日

寅伯山不墨一

作前性一不常月中入

沛移兄之子三应信多象江表分月调元出并依

古年贡米金而个市古也调山了年五各江元元

出并依郡从新、四信便调字年次牙卜是林

仕至与也常月利多了岁平幼定以而山出、年

以手就跡 跡在不出 程留人走
中 程之 迹之 別 迹之 調 節 上 下 之 迹
中 程 之 迹 上

十 五 卷

四 中 之 迹 人
已 用 新 迹 之 迹
一 際 傳 迹 中
而 之 迹 之 迹
中 之 迹 之 迹
一 際 之 迹 之 迹

内藤連三郎

菅原種之丞

少原 常女

田中 吉佐次

藤原 四郎

十月十日 伊集院 概念 少之次

上田 忠平 勘五

飯沼 清之進 五

十月廿六日

新内館所本曾祖源平村名橋公命右左の嫡孫久
 富々々名宗政吉佐次代官上付々々永三町
 留所上上付付々々名三々々名三々々名三三三
 源平氏傳入郡寺川上村、仍一久八節と云々家
 源平氏傳、由々村源文通可留所上上名三三
 一坂下担系入作分源政之吉左の傳々々三々々
 源平氏傳、由々村源文通可留所上上名三三
 源平氏傳、由々村源文通可留所上上名三三
 源平氏傳、由々村源文通可留所上上名三三

大英桑卜中
年

四月十日
多收可
書
以

此句列代
之
故
亦
非
特
機
宜
乎
中
少
如
機
宜
乎
亦
非
特
機
宜
乎
亦
非
特
機
宜
乎

此句列代
之
故

亦
非
特
機
宜
乎

亦
非
特
機
宜
乎

亦
非
特
機
宜
乎

亦
非
特
機
宜
乎

此年重出列氏勳書(通)中宗於以上之
、若夫之口徑從中上之書矣、每以於結之、
り之礼、
所獲之、
之、

中宗

此年、

所進、
因、
列、
之、

、
神、
之、
也、

中日

上田 学

皇野

田中 吉

中 吉

西 吉

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of approximately 15 vertical columns of characters.

君于海濱之山居... 此人之志... 志之... 志之...

子月廿六

子月廿六

子月廿六

子月廿六

子月廿六

去月... 去月... 去月...

去月... 去月... 去月... 去月...

稽之固中一靈神悍妻其屬家以金八石完
居山者皆中神也其意自其於心也
以是或致神也其意自其於心也
居山者皆中神也其意自其於心也
以是或致神也其意自其於心也
居山者皆中神也其意自其於心也
以是或致神也其意自其於心也
居山者皆中神也其意自其於心也
以是或致神也其意自其於心也

松石成歌

因友 古之也
其 德 實 遠
一 派 萬 壽 橋
山 南 亦 如
神 仙 洞 窟 也
多 松 亦 記

田中 上 估 及

蓋 野 徑 無 名 氏
而 以 兩 山 為 記
上 田 亦 有 物 矣
田 中 亦 有 物 矣 亦 有 物 矣
御 德 也
但 田 中 亦 有 神 神 粹 善 其 德 也
亦 有 物 矣 亦 有 物 矣

公之服也如衣其衣之也... 確者... 由... 其...
後... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...

一
中... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其...

日月海

上回

其... 其...

星野村長

田中 古伝
中島 古伝
石川 古伝

き定御はあまあまあまあまあまあまあま
中島

一由文をうたふまあまあまあまあまあまあま
中島

いよはあまあまあまあまあまあまあまあま
お花印のうたあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

信之... 信之... 信之...
信之... 信之... 信之...
信之... 信之... 信之...
信之... 信之... 信之...

由... 由... 由...
由... 由... 由...
由... 由... 由...

甲... 甲... 甲...
甲... 甲... 甲...
甲... 甲... 甲...
甲... 甲... 甲...
甲... 甲... 甲...
甲... 甲... 甲...
甲... 甲... 甲...

高... 高... 高...
高... 高... 高...
高... 高... 高...

市川新助公心より書くは中より直に津川に
ありて是也

市川新助

但定製より中より直に津川に

市川新助

市川新助

横より定製より中より直に津川に
ありて是也

市川新助
横より定製より中より直に津川に
ありて是也

沖谷のしるしを記すに
行方

沖谷のしるし

但口教の語

一 幸居柳の中へ
又 柳の中へ
沖谷のしるし
右は定むる
しるし

沖谷のしるし
右は定むる
しるし

沖谷のしるし
右は定むる
しるし

以我與佛無異...

如雲山深...

名無...

何意...

寧非...

安及...

以如...

自有...

一

口力以礼子書... 何云云
古事其來五世... 子孫其也... 也

二月廿五日

因及... 井... 一... 一... 山... 多...

田中... 工... 氏...

此係... 山... 而... 是... 以... 其... 二月廿五日

御膳上

二月廿七日

権原将元
内宿年上助
井原清重
一原勘助
少原要人
小崎少助
神保内助
高橋外記

田中土佐
菅野将重
西郷平八郎
上田平助

江戸紀行
浅田宗茂
御膳上

月

上田

江戶元月附

海防

御神

月

以成其意也海軍之節矣物以類聚也白海

如級之信也名先也

御下知古如名曰不外一併紀事也方之

古之危情也書如三也也也也也也也也也

會中如一人先例也也也也也也也也也也

如先刑也也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也也也也

紙也子成日得之矣望
即誌年

月

三
高月廿五日

其

第本海人中由法去本揚在要入海係
是之即本回不入元松衣為滿一矣古有集本有
一竹乃一也少二件其惟其代法足惟山是
於一古乃一不而故復之矣一其拉與一併自
性也而世之古物亦古性也元流係是之即
小外方乃一不而古揚在要一併之矣一古
乃一性也亦乃一不而古於一古一併古也一併

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of several lines of text.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry, located below the first block.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry, located below the second block.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry, located below the third block.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry, located below the fourth block.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry, located on the left page.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry, located below the text on the left page.

以紙為書者其地亦多其人亦多其書亦多其地亦多
其後乃知其地亦多其人亦多其書亦多其地亦多
一後

三

乃遠新在情
其堂聖 恒治
丹源 為卷
一遠 為卷
小京 宋女

四申去依
言格外記

神保内家書

一依 要人波

内家内家書

西今 文書書

上田 一書書

田中 書人波

高内河右左衛門

清和天皇御宇 天曆元年 壬辰 二月 乙未 朔 庚申 日

清和天皇御宇

三月

以或物世世言詞計取事子以或所本條乃一系今
山也方下也乃或或下乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
作也乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
作極乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

三乃乃

乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃

三行 外記

神保内記
一 康 要ノ皮
内 夏 正ノ皮
西 人 正ノ皮
上 田 正ノ皮
四 中 正ノ皮

高木内記
高木内記
高木内記
高木内記
高木内記
高木内記
高木内記
高木内記
高木内記
高木内記

三月

以歲時... 山田... 他... 村... 氣... 爲...
... 石... 他... 村... 氣... 爲...
... 山... 他... 村... 氣... 爲...
... 山... 他... 村... 氣... 爲...
... 山... 他... 村... 氣... 爲...

十一月

了... 新... 本...
... 舟... 恒... 治...
... 井... 源... 爲... 志...
... 一... 德... 助... 志...

高小何者一居

小京 采女
田津 古佐
二之稻 外記

神保内 稻野
一 漆 要人夜
内 友 通上 夜
高 柳 文 夜
占 田 一 夜
田 津 之 夜

神保内 稻野
一 漆 要人夜
内 友 通上 夜
高 柳 文 夜
占 田 一 夜
田 津 之 夜

十一日

以成其德也
林之於人也
如木之於
土也
不可
一日
而無之
也

三月

子溪新志
卷之四
一 瀨
二 瀨
三 瀨
四 瀨
五 瀨
六 瀨
七 瀨
八 瀨
九 瀨
十 瀨

三行斗記

神保内記附皮
一瀨 要人皮
内皮 毛皮
西白 文書皮
上白 一學皮
四中 雜人皮

高不何者之皮

佛手記
佛手記
佛手記
佛手記
佛手記
佛手記
佛手記
佛手記
佛手記
佛手記

十二月

高上法寺よりあるに法...
 以下紙に書きたるに法...
 去るに法寺よりあるに法...
 法寺よりあるに法...
 法寺よりあるに法...
 法寺よりあるに法...

三月
 丁酉

菅野信房

神保内記
 一 激 要人

西屏之文

以成法世世世世世世世世世世

作何何何何何何何何何何何何

涉涉涉涉涉涉涉涉涉涉涉涉涉涉

且且且且且且且且且且且且且且

上上上上上上上上上上上上上上上上

付付付付付付付付付付付付付付付付

るるるるるるるるるるるるるるるる

多々多々多々多々多々多々多々多々多々

三三三三三三三三三三三三三三三三

事事事事事事事事事事事事事事事事

万石部

河野公三郎

十二月

菅野 恒治

井原 重雄

一 渡 高木

少 宗 宗女

田 中 大佐

三 橋 邦 氏

神保 内 藏 助

一 渡 要 人 氏

内 友 公 氏

西 公 氏

上 田 一 氏

河野公三郎

河野公三郎

河野

河野公三郎

十二月

わし指書并古色川に... 紙を...

以上紙張... 湯神神... 湯神神...

湯神神...

三ノ...

田中...

内友...

并原...

...

一 瀨 二 島 三 糸
中 京 糸 女
田 中 古 佐
二 与 存 糸 沈

神保内流

一 瀨 二 要 三 友

二 友 三 友 友

三 友 友 友

与 田 一 糸 友

一 瀨 二 島 三 糸 中 京 糸 女 田 中 古 佐 二 与 存 糸 沈

一 瀨 二 島 三 糸 中 京 糸 女 田 中 古 佐 二 与 存 糸 沈

一 瀨 二 島 三 糸

一 瀨 二 島 三 糸

生何月未也。七... 松平伯春の及清源の清言を... (抄) 五...

三右衛門

松平伯春の及清源の清言を... (抄) 五...

... 物并に...

...

甲子... 大目分

小室...

河部...

内友備...

川...

付書

松年三之殿
小笠原信房中夜
松坂清治中夜
松年三之殿中夜
松年信房中夜
如由松尾中夜
小笠原信房中夜
右為之始

津道其級上 仰別公方之長 弟也 弟也 弟也
弟也 弟也 弟也 弟也 弟也 弟也 弟也 弟也
右之弟 弟也 弟也 弟也 弟也 弟也 弟也 弟也

四月

当... 之... 故... 也... 故... 也...

ト云々云々

以... 故... 也... 故... 也... 故... 也...

亦... 故... 也... 故... 也... 故... 也... 故... 也...

伊能之室

三月

上田 一學

菅原 恒治

神保内 義房

一瀬 要之友

西廊 文重

杉之助書の丹列成言按て色をいふ

以て成法は色をいふに同く有るは

信也の序に列成言をいふに同く有るは

伊能之室の序に列成言をいふに同く有るは

伊能之室

三月

菅原 恒治

井原 義房

一瀬 要之友

山本 宗女

田中 土佐

二五帖 一紙

神保内書
一 漢 要人友
内 友 文 友
友 友 友
上 四 一 書 友

尚小何有...

...

三月...

...

...

...

...

三月...

内友 一紙
井原 一紙
少尔 宋女

有る難く事少く又悔悟し抑も今一也
所不有也 後をたねもさしきり
所征伐もたねもさしきり
後をたねもさしきり
所進軍もたねもさしきり
後をたねもさしきり
所進軍もたねもさしきり
後をたねもさしきり

四月

五月廿五日

徳川玄圃殿

方々長信の形勢を法部より承り
所神志法部令海
所進軍もたねもさしきり
後をたねもさしきり
所進軍もたねもさしきり
後をたねもさしきり
所進軍もたねもさしきり
後をたねもさしきり

佛名中及列厥内... 及主目極極

佛名... 佛名... 佛名... 佛名...

佛名... 佛名... 佛名...

佛名... 佛名... 佛名... 佛名... 佛名... 佛名...

佛名... 佛名... 佛名... 佛名... 佛名...

佛名... 佛名... 佛名... 佛名... 佛名...

佛名... 佛名... 佛名... 佛名... 佛名...

佛名... 佛名... 佛名... 佛名... 佛名... 佛名...

佛名... 佛名... 佛名... 佛名... 佛名...

半日... 御種... 二月廿五日

二月廿五日 楊永... 上田... 郭保... 堂...

西... 堂...

高南昔神也西後也

而取江而取江也

即取江而取江也

五

一 是也

是也

是也

是也

是也

弟乃有、喜如中上遊、事初
即書復、爾才、名、人、有、あ、し、ま、る、言、ひ、は、り、す、は、な、ら、ぬ、交
九、云、た、五、の、内、に、あ、る、事、も、ち、中、上、遊、に、あ、り、し、り、し、傍、に、あ、る、名
五、云、た、年、一、少、く、あ、る、事、も、ち、中、上、遊、に、あ、り、し、り、し、傍、に、あ、る、名
三、云、た、女、の、流、生、事、も、ち、中、上、遊、に、あ、り、し、り、し、傍、に、あ、る、名
五、云、た、中、上、遊、に、あ、り、し、り、し、傍、に、あ、る、名
七、云、た、中、上、遊、に、あ、り、し、り、し、傍、に、あ、る、名
八、云、た、中、上、遊、に、あ、り、し、り、し、傍、に、あ、る、名
九、云、た、中、上、遊、に、あ、り、し、り、し、傍、に、あ、る、名
十、云、た、中、上、遊、に、あ、り、し、り、し、傍、に、あ、る、名

所願之也

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

如と血脈を血脈を口色考海城の如く五動言各
中書付及の如くかきかき

此の脚の如き下は陰陽の深遠を言ひ其の如き
是の脚の如き下は陰陽の深遠を言ひ其の如き
別脚の如き下は陰陽の深遠を言ひ其の如き
其の如き下は陰陽の深遠を言ひ其の如き
因縁の如き下は陰陽の深遠を言ひ其の如き
其の如き下は陰陽の深遠を言ひ其の如き
其の如き下は陰陽の深遠を言ひ其の如き
其の如き下は陰陽の深遠を言ひ其の如き

山方三行

形隨事而轉

于

四

五

六

七

八

九

一

一曰我故者上上得念為以事走不常

身反

而改下、其誠主及之、台、何、指、中、中、成、之、是、
其功并改、由、之、改、之、者、一、入、之、自、由、之、改、之、以、及、
之、言、得、而、辨、識、一、改、自、張、而、一、以、以、合、事、指、一、而、始、
了、之、也、而、定、事、一、是、而、以、及、海、之、之、之、以、辨、因、十、
篇、一、故、也、一、事、熱、一、之、也、一、一、後、之、一、而、家、一、少、指、得、也、
何、也、不、及、定、事、一、所、下、之、以、之、一、以、底、一、少、改、也、何、事、一、少、指、
得、也、一、及、之、以、事、指、也、一、以、事、一、一、少、改、也、一、以、事、一、

江之右礼上月一之清言来

上田寺中人柳皮
月友女原中友
汲活伊中友
一類 要人友

一〇折。一〇上折念篇比市定不市。一〇上折念
其我子乃井波比。由。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。
言。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。
我由平。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。
一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。
所投是。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。
及丁及。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。一〇上折念。

一〇上折念

一〇上折念
一〇上折念
一〇上折念

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

此乃自來水之記

田才去所
初任内勤
是初任勤
王南
因
行
一

一
推

江
王
今
御
王

此書

五の書

此書は古くは

後醍醐天皇の御代に

作られたと云ふ事

は、その本に記して

あり

但し

此書は古くは

佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し...
思ふ外... 佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し...
所念あり事

佐田千五郎

書

佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し...
佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し...
佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し...

日

佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し...
佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し...
佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し... 佐田千五郎... 利し...

心
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

御
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

青古

初以信書五書門
并信書五書門
一信書五書門
由多分七事四
芝印信書五書門

甲申去信度
信書五書門
雁名書五書門
工日信書五書門

後信書五書門

一信書五書門

信書五書門
高申の及史書所おのく全書信書五書門一信書五書門

仰書の及史書所おのく全書信書五書門一信書五書門
江申の及史書所おのく全書信書五書門一信書五書門
仰書の及史書所おのく全書信書五書門一信書五書門
仰書の及史書所おのく全書信書五書門一信書五書門

三〇〇〇

書竹亭集

新澤在蘇公碑清風中合其神跡不若他處
多已所藏忽忽之至令人不可言此中妙處

信樂集

月日

江戸の浮世草子

此書は江戸の浮世草子

大目録

枕草子

西行法師

中興の草子

源氏物語

一巻

Handwritten text in cursive style, likely a list of contents or a preface, starting with characters like 枕草子 and 西行法師.

卯辰巳未申

酉戌亥子
丑寅卯辰

百十廿三

百廿三

福原の事なりし女は御通に侍りて其の事なり
福原の事なりし女は御通に侍りて其の事なり
福原の事なりし女は御通に侍りて其の事なり
福原の事なりし女は御通に侍りて其の事なり

百廿三

去月十九日方し御事なす事は御事なりし御事なり
去月十九日方し御事なす事は御事なりし御事なり
去月十九日方し御事なす事は御事なりし御事なり
去月十九日方し御事なす事は御事なりし御事なり

張氏田記

甲申古田
槐石平之
上田之
田者其
張氏伊
一

甲申元月十日

臣川村其
古田其
張氏其
甲申其
古田其

此書... 卷之... 終

